

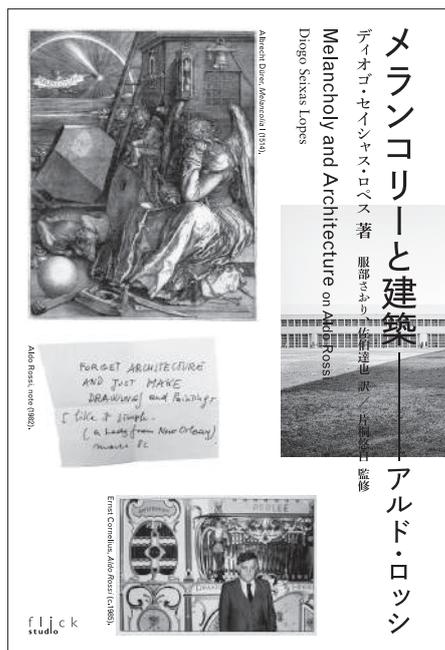
5月下旬配本予定

メランコリーと建築

—アルド・ロッシ

アルド・ロッシ
研究の決定版
待望の翻訳本!

Melancholy and Architecture on Aldo Rossi



著者 | ディオゴ・セイシャス・ロペス

翻訳 | 服部さおり、佐伯達也

監修 | 片桐悠自

編集・発行 | フリックスタジオ

判型 | 四六判

頁数 | 270

発行年月 | 2023年3月30日

本体価格 | 2,273円(税込2,500円)

ISBN | 978-4-904894-59-0

20世紀を代表するイタリアの世界的建築家、アルド・ロッシ研究の決定版、『Melancholy and Architecture: On Aldo Rossi』 待望の翻訳本!

抽象性の高い難解なデザインで知られるアルド・ロッシの建築はどのように生まれたのか? 鍵は「メランコリー」にありました。

本書は、ポルトガルの建築家ディオゴ・セイシャス・ロペス(1972-2016)が、「メランコリー」という言葉を介してロッシの理論と実践の連関を解き明かす意欲作。

2015年にスイス、2019年にはポルトガルで発行されており、初版出版以来、建築界で国際的に注目を集めてきました。

第一章は古典古代に起源をもつ「メランコリー」の歴史と、そこに建築史を重ねることで見えてくるロッシの位置付けについて。

第二章は第二次世界戦後のイタリアの社会背景や文化的潮流の中で、理論と実作を展開させたロッシの軌跡について。

第三章はロッシのひとつの到達点ともいえる建築「サン・カタルドの墓地」についての考察がまとめられています。

「建築理論と実践を連関させる」というロペスの言葉が示すように、ロッシの理論と実践を連関させた本書は、その源流を古典古代や絵画論にまでさかのぼりながら考察することで、あらたなロッシ像が浮かび上がらせます。

[目次]

- 序論 | 今となっては失われた / 不完全さについてのありふれた感情
- 第一章 メランコリーと建築 | 近代性、不安、空間 / 崇高の美学 / 大都市と憂鬱 / 中心の喪失 / 鬱屈した建築
- 第二章 アルド・ロッシの場合 | 戦後の時代 / あるリアリズム教育 / 連続性か、危機か / 選択としての建築 / 記憶としての建築 / 自伝としての建築 / 政治と詩学
- 第三章 サン・カタルドの墓地 | 文化の徴し / 設計競技の一次審査 / 設計競技の二次審査 / 計画と建設 / 死者たちの家 / 打ち捨てられた家 / 骨格の形 / 影の建築 / メメント・モリ
- 結論 | オプティミズムの建築? / 文化と危機 / 結びにかえて

▶ご注文はツバメ出版流通まで **FAX: 03-3721-1922** TEL: 03-6715-6121 E-Mail: info@tsubamebook.com

<http://tsubamebook.com>
[E-Mail: info@tsubamebook.com](mailto:info@tsubamebook.com)

貴店名 (番線印)	新刊	返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通: 川人
	メランコリーと建築 —アルド・ロッシ	
ご担当: 様	冊	発行フリックスタジオ 本体価格2,273円/ISBN978-4-904894-59-0/C0052